

介護と人生

仕事・子育てと
どう両立させる？

30

日本エルダーライフ協会 代表理事
ケアライフアドバイザー

柴本美佐代

ファッションショー

私たちは4年前から要介護者と介護者がモデルとして出演する「ユニバーサルファッションショー」を行っています。

介護者に対する正しい知識の普及は孤立の防止につながりますが、介護のイベントで伝えられるのは介護の苦しさだったり、つらさだったりして、ネガティブ

なイメージが付きまといます。ファッションショーでは認知症の人も車いすの人、まひがある人も全員が美しく変身します。介助がしやすい服ではなく、その人が最もすてきに見えるような装いをし、プロがメークして髪を整えます。もちろん介護者も同じです。

明るいカミングアウトの機会、介護者と要介護者がすてきな家族として登場することが当事者の自信を取り戻すことにつながるのです。ファッションショーはそのための一つの方法です。

介護者が周囲に対して「介護している」ことをオープンにするのは勇気がいるものです。認知症の人を介護している場合はなおさらです。映画やドラマでは必

すてきな家族として自信取り戻す

ず車いすの人が出てきて、認知症の人は言葉も分からず暴れたり騒いだり幼児のような状態に描かれます。実際には介護はもっと多様で問題もさまざまです。

軽快な音楽に合わせて認知症の人が笑顔で手を振って観客に応え、片まひの人が素敵なスーツ姿で車いすに乗って登場します。観客は介護の経験がない人たちですが、それを見て介護がつらく苦しいだけのものとは思いません。

私が代表を務める団体では、認知症の正しい知識や病気の後遺症、障がいについての市民向けの講座や、介護施設などへの偏見をなくすための見学会を開いています。

介護の偏った一面だけを伝えるのではなく、大変さも楽しさもあることをありのまま伝え、何より誰でも要介護状態になったり、誰かを介護することになったりするのだと受け入れてほしいと思います。

